

道徳的実践力を育てるための授業の工夫

目 次

I. テーマ設定の理由	123
II. 道徳教育の基本的な考え方	124
1. 学校における道徳教育	124
2. 道徳教育の位置づけ	124
3. 道徳の時間における道徳教育	126
III. 道徳の時間における道徳的実践力の育成	127
1. 生き生きした授業を組み立てるための基本的な着眼点	127
2. 道徳的実践力を育成するための授業の構想	127
IV. 授業実践	134
1. 主 題 名	134
2. 主題設定の理由	134
3. ね ら い	135
4. 主な内容	135
5. 指導過程	135
6. 資料分析と指導過程における発問構成	138
7. 授業の反省と考察	139
V. 研究の成果と今後の課題	141
＜主な参考文献および参考書＞	

浦添市立浦添中学校教諭

久 高 洋 子

道徳的実践力を育てるための授業の工夫

浦添市立浦添中学校教諭 久高洋子

I. テーマ設定の理由

現代の社会は、科学技術の進展によって物質的に豊かになり、便利で快適な生活が営まれている。そして、生活環境が大きく変化する中で価値観は多様化し、生徒の生き方にもいろいろと影響を与えている。例えば、本校の生徒は明朗・純朴であるが一方、目的意識が薄く消極的であったり、自己中心的で協調性に欠け、相手の立場を考えて行動しようとする心構えが十分に育まれていないところなどがある。

本校では、昨年、道徳の時間における道徳的実践力の育成の指導に取り組み、その結果を考察したところ、「礼儀正しさや、物を大切にできる心」等の指導の弱さが浮き彫りにされた。また、生徒の意識の中にも「道徳の時間の学習」の意義が十分に認識されていないことも明確になった。

以上のことから、生徒の当面する生き方についての課題解決のためには、学校における道徳教育の充実、とりわけ週1時間の道徳の時間の指導のあり方に大きな課題が提示されたものと思う。

これまでの私自身の授業を振り返ってみると、道徳の時間の指導の重要性はある程度認識して授業に臨んだつもりだが、それは、決して生徒が待ち望むほどの時間ではなかったように思う。

その原因として考えられることは、

- 道徳の時間を日々の問題解決に当てることが多いため、この時間が自らの「生き方」と深く関わっている時間であるという意識を持たせることが十分でなかった。
- 授業に臨む前の資料分析が不十分だったために、生徒の興味・関心を喚起させることができず盛り上がりのない授業で終わってしまった。
- ねらいとする道徳的価値に対して、迫っていく発問の工夫が足りなかったために、生徒の実践意欲をそることが十分でなかった。
- 教師主導の授業で終わることが多く、生徒の出番を十分に与えてなかった。等があり、深みのある実践に結びつく授業ではなかったということを反省している。そのことから、自分の実践を振り返り、授業の改善点について次のように考えてみた。

1. 生徒に道徳の時間の意義を理解させ、「ねらい」とする価値に対する関心を高め、実践しようとする意欲を育てるための指導過程を工夫する。
2. 生徒の実態に応じた資料の精選と活用の仕方を工夫する。
3. 主題のねらいとする道徳的価値に迫るための適切な発問を工夫する。
4. 生徒の道徳的判断力、心情、態度や実践意欲について、客観的な評価のあり方を工夫する。

このような点を配慮して授業に臨めば、生徒は、道徳的諸価値について自己を振りかえり、自己に問いかけ、これからの生活にどのように生かしていけばよいかを考えて、実現をめざそうとするであろう。その結果、道徳の時間の授業も活発化し、生徒一人一人の道徳的実践力が育つものと思う。これらの視点に立って「生徒の道徳的実践力を育てるためには、どのような指導を工夫すればよいか」のテーマを設定し、研究に取りくむことにした。

II. 道徳教育の基本的な考え方

1. 学校における道徳教育

教育の究極の目標は、「人格の完成をめざす」（教育基本法）とところにあるが、道徳教育は、この人格の形成の基本にかかわるものである。学習指導要領によると「……道徳教育は、人間尊重の精神を家庭、学校その他社会における具体的な生活の中に生かし……その基盤としての道徳性を養うことを目標とする。」とある。

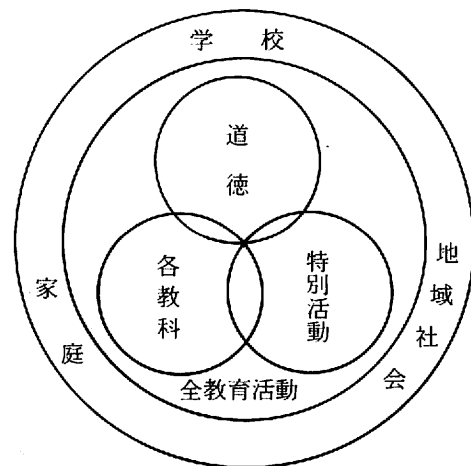
要するに、学校における道徳教育は、人間尊重の精神に基づいて、望ましい日本人としての資質を育成するため「その基盤としての道徳性の育成」をめざす教育活動であると言えよう。ここでいう道徳性とは、人間らしいよさのことである。人間はだれでも人間である限り人間らしいよさを持ち合わせている。道徳教育は、その人間らしいよさを発揮させるために行われる教育であるとも言える。

ところで、中学校における道徳教育を考えると、それは必ずしも完成された人間像を求めめるものではないと言われる。これは、中学生の時期が、一般に自らの人生についての関心が高くなり、自分の人生をよりよく生きたいという願いが強くなることから、その願いに即して人間の生き方についての自覚を深めさせ、人間としての生活のありかたの基盤である道徳的なものの見方、考え方、行動の仕方などを身につけさせて自分の価値をより望ましいものに育てていく指導が求められるからであろう。従って、学校における道徳教育は、生徒一人ひとりの中にある「よりよい人生を求め、自己実現を図ろうとする姿」を見つけ出し、生徒の願いに目を向けることから出発しなければならないと言われる。

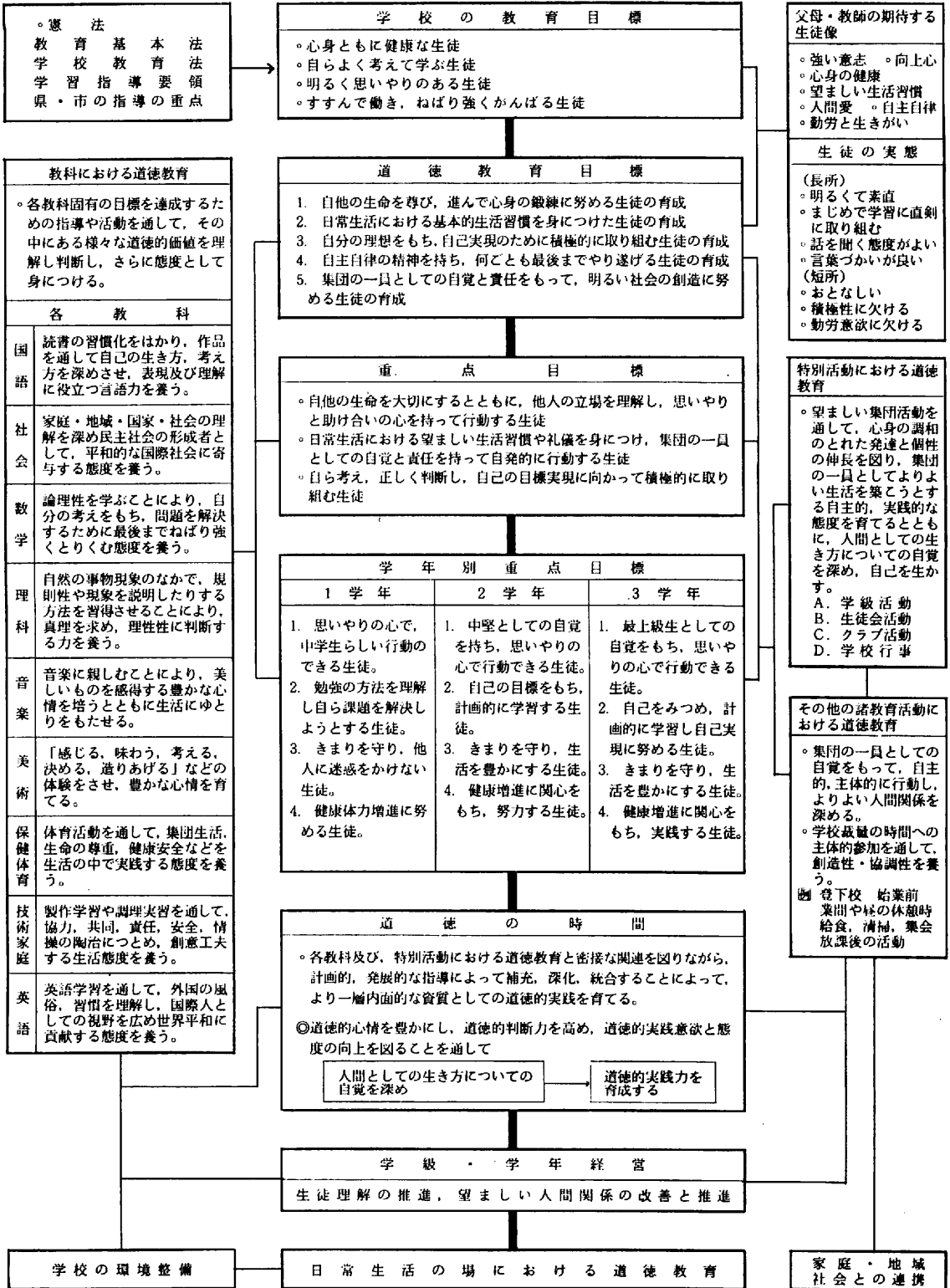
2. 道徳教育の位置づけ

学校における道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行うことを基本とすることがうたわれている。そこで、道徳の時間は勿論、各教科及び特別活動においても、それぞれの特質に応じて適切な指導を行わなければならない。そのためには、道徳教育が学校教育の中で、どう位置づけられているかを明確にする必要がある。

学校における道徳教育の全体計画は、全教育活動を通して一貫した指導を進めていくために作られた道徳教育の全形とも言えるのではないかと考える。そこで、学校における道徳教育の効果を高めるためには、全教師が道徳教育の意義や進め方について共通理解を図るとともに、学校、家庭、地域の三者が連携を一層密接にして相互に理解し合い、協力しあって指導を進めていくことが大切であると言えよう。



道徳教育の全体計画(試案)



3. 道徳の時間における道徳教育

(1) 道徳の時間の設定

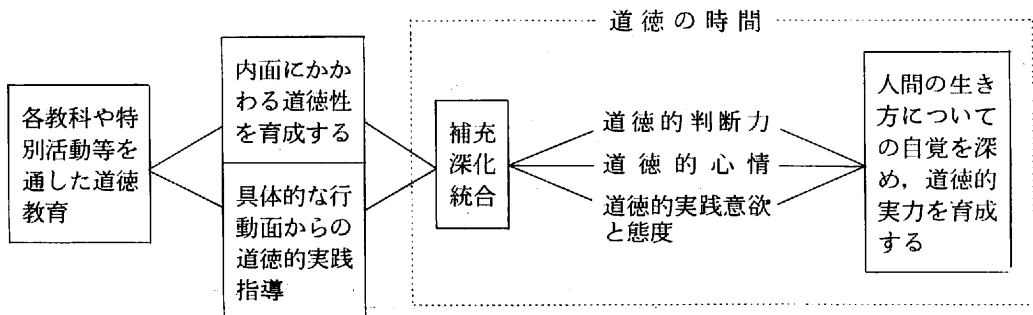
道徳教育とは、生徒の道徳性の育成を目指す教育活動であることは前述したとおりである。学校における道徳教育は、学習指導要領にも示されているように、学校の教育活動全体を通じて行うことが基本である。なぜなら、道徳性は、学校の教育活動全体を通じて培われるものであり、その成果は、あらゆる教育活動の中で発揮されるからである。

しかし、各教科、領域等にはそれぞれ固有の目標と内容があり、道徳性の育成が直接のねらいとするものではない。あくまでも、それぞれの目標や内容を達成するための指導をしていく中で、道徳性の育成を図っていくことにしかならない。したがって、調和のとれた望ましい道徳性を育成するためには、学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育を統合して1つのまとまりをもって指導する機会と場が必要となる。また、これらの諸活動を通して行われた道徳教育と密接な関連を図りながら足りないところを補ったり、より一層深めたりする時間が必要である。このために設けられたのが道徳の時間であると言える。

(2) 道徳の時間の指導

道徳の時間の指導は、内面から道徳性を育てていくことにより、他の領域における道徳教育と相まって、それらの諸問題の解決に積極的に努力していく人間を育てていく時間である。そこで、教師は指導にあたって、人間として生きるために必要と考えられる道徳的価値を十分理解するとともに、生徒が根本において何を求め、何を欲しているか等の把握が大切である。

道徳の時間の指導では、特に生徒が、学校のそれぞれの場で行われる道徳教育を通じて抱くであろう様々な道徳的な問題意識を深く掘り下げて考えさせ、生徒自身の生き方に結びつけて道徳的な心情を豊かにし、道徳的判断力を高め、道徳的实践意欲と態度の深化向上を図ることを通して、人間の生き方についての自覚を深めていくことを主眼において指導していく。その結果、生徒は、道徳的实践力が身につく自ら道徳的に望ましい行為をしないではいられないような内面的充実が図られ、道徳的实践を目指していくものと思われる。



Ⅲ. 道徳の時間における道徳的実践力の育成

道徳的実践力とは、一人一人の生徒の内面に道徳性を育てていくことによって育成される道徳的実践につながる力のことであると言われている。

道徳的実践力を育成するためには、資料（生活経験を含む）を媒体にしながら、それに対する生徒の見方、考え方、感じ方を話し合いを通して引き出し深めることによって、自らの言動を振りかえらせ内省させるとともに、ねらいとする道徳的価値について自覚を深めていくことである。

人間の行為は、その人の内面にあるものと密接に関連していると言われる。そのことから、道徳指導における実践力の育成は、あくまでも教師と生徒のふれあいと相互理解に立って共に生き方を模索し、生き生きと学習する中で道徳的価値が自己の生き方に極めて大切なものであることを主体的に自覚させていくことである。そうすることで生徒は、価値を心から納得し自ら行動しようとする内面の深化が図られていくものとする。特に、内面の深化に迫っていく道徳の時間の指導では、ねらいとする道徳的価値についての生徒の意識と行動の実態把握は欠かせないものである。その上に立って、生徒に生き方を深く考えさせ自らのものとして主体的に受けとめる授業を工夫していくことが大切である。

1. 生き生きした授業を組み立てるための基本的な着眼点

(1) 人間の様々な側面について理解を深める。

資料の中から人間性について赤裸々に描かれているところに着目して、これをとらえるとともに自らに引き戻して考えさせ、人間性について理解を深める。

(2) 人間性の諸側面とかかわって道徳的価値について考えさせる。

人間性のどの側面にも道徳的価値が分かち難く結び付いている。その価値を「もし自分だったら」と、自分にひき比べて考えさせる。

(3) 道徳的価値の目的としての価値を重視する。

人間とかかわって価値を考えると、行動のよしあしを判断する基準の面からだけとらえるのではなく、その価値を身につけた自分とそうでない自分を考え、どのような人間になるかという面から考えさせる。

2. 道徳的実践力を育成するための授業の構想

(1) 主題構成

主題とは、どのような道徳的価値をねらいとし、どのように資料（生活経験も含む）を活用するかを構想する指導のまとまりであり、〈ねらい〉と〈資料〉によって構成される。

主題の構成とは、「何を」指導するかという問題の理解および把握と指導の方向を明らかにすることである。従って、主題の構成が厳密にできるならば、授業の形態や方法、および資料の利用の仕方ともほぼできたものと言える。その意味において、主題構成は道徳授業成立の決定条件である。

(2) 資料の精選と活用

資料は、生徒と教師が共通の立場で主体性を発揮しながら、ねらいとする価値を追求する手がかりであり、媒体をなすものである。そこで、生徒に充実感をもたらすような生き生きとした指導を進めるためには、すぐれた資料を用いることが大切である。

資料を選ぶに当たっては、生徒の興味や発達段階に応じた資料、道徳的価値が適切に表れている資料、心の糧となる資料、生徒が親近感をもち、受け入れやすい資料、ねらいを無理なく達成できる資料など、望ましい資料の条件を備えているものかどうかを念願において精選することが重要である。また、道徳の時間は、資料を媒体にして、主題のねらうところの価値について生徒と話し合い、生徒が現に持っている道徳的価値観（考え方、感じ方）を、より望ましい方向に変容させていくことをめざしている。そこで、資料を活用するにあたっては、資料の特性を十分に把握し、提示の方法や有効な活用の仕方など工夫しなければならない。例えば、指導過程の展開段階における中心資料の活用では、資料の中のどこに着目し、どのような手順で何を考えさせようとするのか指導の構想をしっかりと持つ。そして、集中的に主題に取り組むことによって、生徒一人一人がどう生きたらよいかを深く考えさせて道徳的価値に迫る工夫が大切である。なお、資料の活用効果を高めるために、視聴覚教材の利用、説話、劇化など諸方法を併用することも必要である。

① 資料の分析

資料の分析は、資料のどこをどのように使って、どのような価値をどの程度まで追求したらよいかを吟味することである。指導過程や発問を考える上から欠かせないものである。

<資料分析の手順>

- ア. 資料を深く読み取り、内容を場面ごとにまとめる。
- イ. 各場面ごとに登場人物の行為、心の変化をおさえる。
- ウ. 登場人物の行為や気持ちを支えている価値を洗い出す。
- エ. ねらいとする指導内容が、どの部分にどのような言動として表れているかをとらえる。
- オ. ねらいとする指導内容が含まれている部分を、どう扱い、どの程度まで追求させるかを本時のねらいや生徒の実態に合わせて吟味する。
- カ. 主人公に対して生徒が、どのような感想をもつか予想する。
- キ. 発問を考え構成する。

(資料分析表、内容については授業実践例の17ページ参照)

話のすじ	主人公の心の動き（言動）	発問の場	発問の意図	発問

(3) 発問について

道徳の時間における教師の発問は、その授業を方向づけ、ねらいを達成するために欠かせないものである。

教師の発問は、生徒の心に問いかけたり、学級全員に考えさせたりして主題のねらいにか

かわる道徳的価値を生徒一人一人に自らの生き方にかかわるものとして自覚させていく大切な働きがある。また、一人一人の生徒の視野を広めたり、自己反省や自己理解を深める契機となったりする。さらに、生徒相互にももの見方、考え方、感じ方に共通点や相違点のあることを気づかせる働きもある。従って、効果的な発問を行うためには、中味の検討や生徒のわかる発問を工夫しなければならない。発問を構想していく時には、次のような事柄に留意していく。①一問一答にならないような発問を考える。②1つの発問にたくさんの要素を盛りこまない。③漠然とした発問はしない。④意図がはっきりした発問をする。⑤多様な考えの出る発問を考える。⑥考えるゆとりを与えるような発問をする。

(4) 指導過程について

教師が道徳の授業を行う時、主題のねらいを達成するために生徒の実態に応じた資料を生かし、どのような手順で指導するかを明らかにしたものが指導過程である。

道徳の授業を効果的に進めるためには、指導のねらいを明確にするとともに、学級の実態や道徳性の傾向を把握し、ねらいに対して生徒がどのような考え方や感じ方をしているかをとらえることが大切である。そして、主題に迫る過程で、生徒に望ましい人間としての生き方を追求させ、ものの見方、考え方を深めていくことが大事である。そのためには、次のような構成要素を満たしていくことが重要である。

① 指導過程を構成するための要素

- ア. 指導のねらいを明確にする。
- イ. 生徒の発達段階と実態に応じたものにする。
- ウ. 適切な資料を選定する。
- エ. 適切な指導方法を工夫する。
- オ. 他の教育活動との関連を考慮する。

② 指導過程の段階区分と意識の変容

終末段階	意欲化 ↑ 態度化	決 ↑ 意 ↑ 自我性を確立する ↑ 実践への見通しを持つ	中心資料と異なる生活上の簡単な資料、または指標となる事例を用いる。	実践 意欲 ↑ 高い 価値判断
	主体化 (拡大・深化) ↑ 価値の一般化 ↑ 価値の分析・追求 ↑ 問題場面の明確化	生活との関連で価値を把握する ↑ 道徳的行為の価値を確かめ納得する ↑ 価値を追求し、中心価値を自覚する。(理解、判断、共感) ↑ 中心資料における問題場面行為、人物を分析する。	中心資料を離れる。直接、間接経験を中心に展開する。 中心資料の読みとり	道徳的価値観の変容
	意識化・焦点化 ↑ 生活経験の想起 ↑ 興味・関心を高める	学習のめあてをつかむ ↑ ねらいとする価値に気づく ↑ 問題を意識する ↑ 素朴な価値観	意識づけのための資料提示	
指導過程	生徒の意識	資料	素朴なもの見方、考え方	

(5) 実態調査

〔生徒の日常生活における道徳的意識に関する調査〕

① 調査のねらい

本校の生徒が、別紙のような調査項目の場面に遭遇したとき、どのような気持ちになるか（感じ方）・どう判断するか（考え方）・どう行動するか（態度、実践）を調査することによって、

(A) 本校の生徒が、何を望ましい価値としているかを明らかにする。

(B) 本校生徒の、道徳性育成の指導上の課題を明らかにする。

② 調査内容

調査価値項目は、中学校における道徳の指導内容（16項目）から、13項目を選択した。調査内容については、山形市教育研究所のものを採用し、本校の地域性と学校の実態を取り入れて一部修正を図った。

項 目	ねらうべき価値内容	設定した場麗
1. 礼儀作法	気持ちよく楽しい生活をするために礼儀作法の大切さを知り、時と場に応じた適切な言動ができる。	小学校の時お世話になった先生が向こうから歩いてくるのをみつけた。
2. 信頼・友情	友人を敬愛し、向上を願って助け合うことができる。	病気で休んでいる友人から、毎日ノートを写させてくれと頼まれた。
3. 自主自律	中学生としての自覚をもって自主的に考え、自分で決断して正しく対処する。	予定されている家庭学習がある時どうしても見たいテレビ番組があったその時、勉強にどう取り組むか。
4. 正義・勇気	正不正を判断し、勇気を持って正しく行動できる。	次郎と三郎が清掃中ほうきと雑巾で遊んでいたが、周りの人は皆みて見ないふりをしていた。
5. 規則の尊重	集団生活の向上のため規則を守ることの大切さがわかる。	きめられた清掃時の服装をしなくて床を掃いている。
6. 自由・責任	一人の人間として自覚し、自分の言動に責任を持つことができる。	全校の読書コンクールに向けて学級で計画を立てたが、みんな協力しない。

項 目	ねらうべき価値内容	設定した場面
7. 勤労・協力	学級会活動や委員会活動を通して、みんなのために働くことができる。	学校のそばの通学路や側溝に、紙くずや空き缶がすてられている。
8. 不とう不屈	自分の意志で決めたことは、障害をのりこえ最後までやりぬく。	部活動がきびしく勉強が思うようにできない悩みをとりあげ、その両立のために努力することができる。
9. 向上心	自分と異なる意見を尊重し、高い目標に向かって希望をもって進む。	先生から将来の希望する職業を聞かれた時、「小学校の先生になりたい」と答えたら、「もっともっと勉強しなければいけないよ」と言われた。
10. 尊敬・感謝	自分たちや、世の中の人のために尽くしてくれる人々に対し、尊敬感謝する。	入院している父が「看護婦さんたちは、いつも笑顔をたやさず、真夜中でも異常があればすぐきてくれるんだよ」と話してくれた。
11. 家庭愛	家庭に支えられている自分の立場や生き方を考え、感謝の念を持ち、明るい家庭の建設をすることができる。	テレビを見ていると風邪で寝ていたお母さんが起きてきて、夕食の買い物に行く。
12. 公共心・公德心	社会生活において、公共物を大切にし、互いに迷惑をかけることがないようにする。	遠足で、行楽地に行ったとき、ジュースの空きかんを草むらの中に投げ捨てた。
13. 愛校心	自己の属する集団を愛する心を育て、自分勝手な考え方や行動を自制できる。	夏休みに、自校の野球部が県大会に出場し、全校生が第1試合の応援に行く。

③ 調査の対象

全学年を対象にし、各学年とも3クラスを抽出して調査する。

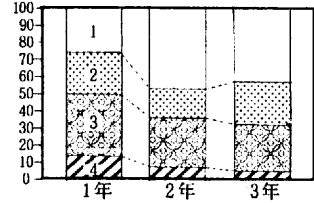
④ 調査問題と応答率
(自主・自律)

きょうは、テレビの番組で、竹子さんが見たいものがあります。しかし、宿題もあるし復習もしなければなりません。

問題1. あなたが竹子さんなら、どんな気持ちになりますか。(心情面)

- ア まず、テレビを見たい。
 イ どうしたらよいかまよってしまう。
 ウ 宿題だけはやって、テレビを見よう。
 エ 勉強が大切なので、テレビは見ないことにしよう。

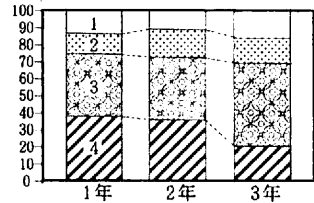
	1年	2年	3年
ア	28.0	47.5	45.0
イ	21.5	15.0	18.8
ウ	37.4	30.8	32.8
エ	13.1	6.7	3.1



問題2. こういう時、どうすればよいのでしょうか。(判断面)

- ア テレビを見る。
 イ 宿題だけ、いそいでやって、テレビを見る。
 ウ テレビを見ながら勉強をする。
 エ 勉強に全力でとりくむ。

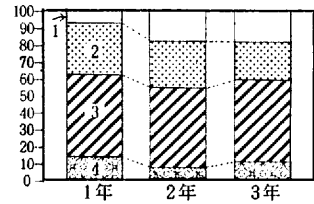
	1年	2年	3年
ア	12.1	10.7	18.0
イ	37.4	5.0	50.0
ウ	11.2	13.3	11.7
エ	39.3	38.3	20.3



問題3. 今まで、あなたはこんな場合に、勉強をどうしてきましたか。(態度面)

- ア 勉強しなかった。
 イ テレビを見ながら勉強した。
 ウ 勉強に重点をおいてやってきた。
 エ 宿題だけは、いそいでやった。

	1年	2年	3年
ア	6.6	17.5	17.1
イ	29.9	27.5	21.5
ウ	14.0	7.5	10.0
エ	49.5	47.5	51.4



<分析と考察>

◎ 自主・自律

心情面は、1年生が4, 3段階を合わせると50%を超すが、2, 3年生は4, 3段階を加えても、1の段階「まずテレビを見たい」と答えた方が多い。判断面では、1, 2, 3年生とも4段階「勉強に全力でとりくむ」3段階「宿題だけ、いそいでやってテレビを見る」を合わせると70%を超える。これは、意識の上では勉強(主に宿題)をしなくては行けないと考えている。ところが、過去の態度を見ると1, 2, 3年生とも70%の生徒が、「宿題だけは、いそいでやった」「テレビを見ながら勉強した」と答えている。これは、価値ある行動は何かを考えずに、ただ「やりさえすれば」という形だけの繕いを考えているような感じがする。また、2, 3年生の中には、テレビの番組で見たい番組があったので「勉強しなかった」と17%の生徒が答えている。これらを総合して考えると、テレビがいかにか日常生活の中に深く浸透し、中学生の心を強く引き付けているか、また、日々の生活の中で心の戦いを作り出すものになっているかがわかる。そして、「テレビを見たい」等と強い欲求にかられた時、自制する力の弱い生徒は、形だけの勉強に終わり、テレビのとりこになりはしないかと心配される。なお、学力の問題とも大に関係してくるのではないかと考えられる。そのことから、今後の指導においては、欲求と闘い自己コントロールする力をつけてやる必要があるのではないか。特に、現代っ子は「辛抱する心」に欠けているとも言われているので、「より価値ある行動を深く考える」ことと合わせて培わなければならない課題だと考える。

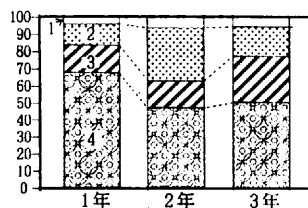
(正義・勇気)

次郎君と三郎君が、清掃中にホウキとゾウキンで遊んでいます。それを、学級の多くの人は見て見ないふりをしています。

問題1. あなたが2人を見たら、どんな気持ちになりますか。(心情面)

- ア 自分もやりたいなあ。
 イ おもしろそうだなあ。
 ウ とても悪いことをしているなあ。
 エ 先生からしかられるといいなあ。

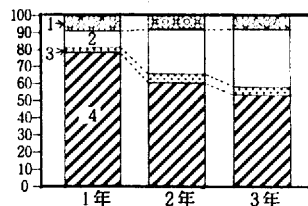
	1年	2年	3年
ア	3.7	6.7	4.7
イ	11.2	30.0	17.2
ウ	70.1	47.5	51.6
エ	15.0	15.8	26.5



問題2. とういう時、どうすればよいのでしょうか。(判断面)

- ア 見て見ないふりをする。
 イ 学級会などの時に話題にする。
 ウ 自分もいっしょになって遊ぶ。
 エ すぐ忠告(注意)してやる。

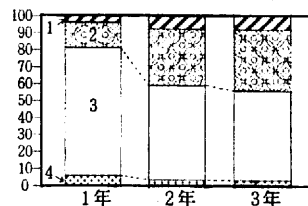
	1年	2年	3年
ア	10.3	23.3	33.6
イ	1.9	5.0	4.7
ウ	8.4	9.2	7.8
エ	79.4	62.5	53.9



問題3. 今まで、あなたはこんな場合に、忠告(注意)をしてきましたか。(態度面)

- ア ときどきしてきた。
 イ いつもしてきた。
 ウ したことがない。
 エ いっしょになって遊んだことが多い。

	1年	2年	3年
ア	78.5	58.3	53.8
イ	5.6	1.7	1.6
ウ	12.1	30.8	35.2
エ	3.8	9.2	9.4



<分析と考察>

◎ 正義・勇気

心情面で、4、3段階を合わせて「いけないことをしている」と感じている生徒が、1年生85%、2年生63%、3年生78%いる。それに比べて、2、1段階の「おもしろそうだな」「自分もやりたいなあ」と思っている生徒が、2年生で36%もいる。この生徒達は、不正を感じるよりも自分の興味欲求に引かれてしまう傾向があり、問題を含めると考えられる。判断面では、4、3段階を合わせた「注意してやる、学級会の話題にする」等、積極的な考えをしている生徒が、1年生で81%も超えている。ところが、2年、3年と学年が進むにつれて何らかの行動をとって正していこうと考える生徒が少なく、率が下がっている。それに対して2、1段階の「見て見ぬふりをする」「自分も一緒になって遊ぶ」は、3年、2年、1年の順で高くなっている。態度面で見ても、4、3段階の「いつも注意してきた」「ときどきしてきた」を合わせると、1年生は80%も超えるのに、2、3年生になると、ぐっと低い。それに対して、「注意したことがない」「一緒になって遊んだことが多い」と答えた生徒が、3年、2年と逆に高く、1年生は、2、3年生の半分もない。このように、全体を含めて考えてみると、正しさ(善)を求めて他と積極的にかわっていかうとする考えは、学年が進むにつれて薄れてしまい、他に対しての無関心さが大きく出ているような気がする。これは、仲間意識が強い中学生の発達段階から、異質になるのを恐れた一種の自己防衛意識の現れではないかと考えられる。しかし、中学生は、善悪の判断が一応は大人並みにできるようになると言われていることから、付和雷同的意識を正し、正、不正の明確な判断に基づき、勇気を持って正しい行動ができるような「強い自己」を育てなければならないのではないかと思う。道徳的实践に導く道徳指導の大きな課題である。

IV. 授業実践

道 徳 指 導 案

浦添中学校 3 年 1 組 男子 23, 女子 21, 計 44 名

指導者 久 高 洋 子

1. 主 題 名 ある日の学級会 (集団生活の向上・強い意志)

2. 主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

一般的に中学生は、自分の所属する学級とか、クラブ活動、部活動といった仲間集団への強い所属感や連帯感をもっている。しかし、反面、自分の所属する集団さえよければ、という狭い仲間意識もそれに伴いがちである。

本校の 3 年生をみても、確かに部活動等で強い仲間意識がみられ連帯感もあり、自分の所属集団の立場での主張も大きい。ところが、学級集団の中においては、一人一人が集団生活の向上をめざして取り組む姿があまりみられない。また、集団としてのまとまりも弱いように感じられる。当学級においても同じ事が言える。一人一人は、すばらしい能力を持ち合わせているが、集団生活を向上させていく面からとらえた時、お互いに遠慮しあったり、無関心を示したりで、所属集団の意義を十分に理解していないのではないと思われる。

そこで、集団と成員の関係を理解させ、集団の和を重んじ、進んで自己の役割を果たして集団生活の向上に貢献しようとする態度を育てる必要がある。

(2) 主題観

中学生の時期は、学校、学級などと生徒の所属する様々な集団が生徒の人間的な成長には、深い関わりを持つ。例えば、クラスが望ましい集団であれば、その成員である一人一人も良くなる。また、一人一人が望ましい集団意識をもっておれば、クラス全体がよくなっていくという現象がある。それは、いわゆる環境が人をつくり、また人が環境をつくっていくということではないかと思う。そう考えた時、3 年生にとって学級集団の意義は極めて大きく 1 日でも早い協力姿勢が望まれる。特に中学生の最終学年としての位置にあって、学校全体からの期待も大きいことは否めない事実である。そこで身近な学級集団に目を向けさせ、集団生活を向上させるためにはどうすればよいかを考えさせることは、大変大事なことだと考える。特に、学級においては、少数のグループ仲間を作り、ともすると自分達の利益のみを追求しがちになる頃であり、意図して利己心や狭い仲間意識を克服させなければならないと思う。そうすることによって、一人一人が学級の集団生活を向上させるために協力しあう態度が育つだろう。そして、より充実した学級生活が営まれるものと考ええる。

(3) 資料観

資料「ある日の学級会」は、前段と後段の 2 場面から構成されたものである。前段は、筆者 (主人公) が朝会のあと教室のすみで、また美術室で時間のはじめに、集団いじめを目撃した。これを先生に報告しようと思ったができなかったことをのべ、後段では、この問題解決のための学級会が開かれ、筆者が議長として、その真相の究明にあたり加害者や、いじめの動機を明らかにしたことを述べている。

学校生活の中では、この問題のような集団いじめまでは発展しなくても、狭い仲間意識からあるいは、とてつもない理由から弱い者いじめをしたり、気にいらぬからという理由で友達を疎外しすることがある。資料を通して、自分達の生活を振りかえらせ、身近に起こりうる問題として気づかせ、集団生活のあり方を一人一人の問題として受けとめさせ考えさせたい。更に学級会の様子から、今後集団生活を向上させるためには、勇気を持って積極的に取り組んでいく態度が必要であることを感じとらせるのに適した資料である。

3. ねらい

「ある日の学級会」を中心に、狭い仲間意識にとらわれず、お互いに批判しあって集団生活の充実と向上を考えようとする態度及び意欲を養う。

4. 主な内容

集団の一員として

- (1) 義務と責任の自覚……お互いに各自の義務・役割の遂行とその責任を自覚する。
- (2) 規則の尊重……一人よがりの考えで行動するのではなく、お互いにきまりを尊重しあって楽しい集団生活ができるような雰囲気を作っていく。
- (3) 正義・勇気……たとえ誰であっても、みだりに自分の立場のみ主張して集団の和を乱す者があれば、勇気をもってたしなめる。
- (4) 自主・自律……常に自主的に考え、正しく判断し、他からの誘惑にまけない強い意志を持つ。
- (5) 思いやりの心……利己心や狭い仲間意識にとらわれず、誰に対しても温かく接していく態度を身につける。

※ これらの価値は、個々に存在するものとして指導するのではなく本時のねらいを達成するための展開の中で、互いに関わりあうものとしてとらえている。生徒も資料の中から、それぞれの価値を気づき、考え、深めていく中で主体的な自覚をしていくものと期待している。

5. 指導過程

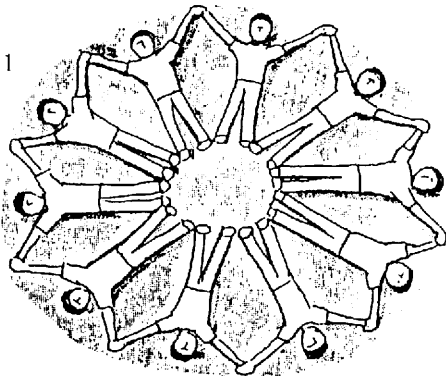
区分	学習活動	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	留意点
導入	1. 1枚の絵を提示して、ねらいとする道徳的価値への方向づけと資料への導入を図る。	絵1（仲間と共に）を貼る。 1. 学級の中で、いじめや暴力行為などの問題はないか。 また、学級の問題として、みんなで考えていかなければならない事はないか。 絵2（集団いじめをしている場面を貼る）	・今日は学級集団のことを話し合うことに気づく。	全員に意識づけるように絵を貼る時、工夫する。 無理に発展を求めない。 各自に生活経験を想起させる。

区分	学習活動	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	留意点
展開	<p>2. 資料「ある日の学級会」を読んで話しあう。</p> <p>(1) 前半は、集団いじめの状況や加害者、被害者の態度などを中心に話し合う。</p> <p>(2) 後半(学級会の様子から望ましい学級集団のあり方を話し合いによってとらえる。</p>	<p>1. どこで、だれがだれを、どのような形でいじているのか。</p> <p>2. 筆者は、学級の集団いじめに気づいた時、どのように感じ、どうしようとしたか。</p> <p>3. 自分が筆者の立場だったらどうするか。</p> <p>4. Yさんたちの態度をどう思うか。</p> <p>○なぜ思ったとおりにできなかったのか。</p> <p>○この問題について、学級会でどのような話し合いがなされたか。後半を読んでみよう。 (この問題に対する担任の厳しい態度、高田君の勇気ある発言を気づかせる)</p>	<p>○ろう下や美術室で女の子をいじている。</p> <p>○数名で1人をいじている。</p> <p><感じたこと></p> <p>○これではよいクラスはできない。</p> <p>○おそろしいことだ。完全に脅迫である。</p> <p><どうしようとしたか></p> <p>○注意する。</p> <p>○何らかの方法で止める。</p> <p>○先生に言おう。</p> <p>○問題を解決しなくてはいけない。</p> <p>○直接注意をする。</p> <p>○黙ってみないふりをする。</p> <p>○ひどい許してはいけない。</p> <p>○自分の気持ちがムシャクシャするからといって人をいじめるのはおかしい。</p> <p>○一緒について行き事件に加ったのも軽率だ。</p> <p>○自分も手を加えなくても見に行くかも知れない。</p> <p>○学級会の様子を読みとる。</p>	<p>集団いじめの実態を明らかにする。</p> <p>考える視点を与える。</p> <p>○感じたこと</p> <p>○どうしようとした</p> <p>事が重大であることに気づかせ真創に考えさせる。</p> <p>まだ自分の素朴な価値のままの生徒もいるかも知れないが、批判させていく方向に導く。</p> <p>主人公の弱腰なところや、それをのりこえる過程に注意させていく。</p>

区分	学習活動	教師の働きかけ	予想される生徒の反応	留意点
展開	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 事件を離れて自分達の学級集団の向上をめざすための話し合いをする。 	<p>5. 筆者の苦しみを乗り越えさせたものは何だったか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 自分達の学級で似たようなことはなかったか。 <p>6. 学級の集団生活で、今度の学級会から学んだことを生かしていくには、どうしたらよいか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 高田君が勇気ある発言をしたからだ。 ◦ 指名していったのがよかった。 ◦ 学級のみんなが注意しあっていく。 ◦ よくないグループへの解消に協力する。 ◦ 各自の役割分担をきちんと責任果たす。 ◦ 班や係の決め方を工夫する。 ◦ だれとでも仲よくしていく。 	<p>自己投影して考えさせたい。</p> <p>集団生活を向上させるための方策を考えさせる。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ◦ まとめてして教師の説話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 中学校の最終学年としてのこのクラスを、より意義あるものとするために、今日の学習を毎日の生活や行事（修学旅行）に生かしてほしい。 ◦ 今日の学習で心に残ったこと感じたことを道徳ノートに書かせる。 		<p>3年生が一番待ち望んでいる修学旅行等を取り入れることによって価値の実践化への意欲を起こさせる。</p>

資料

絵 1



絵 2



6. 資料分析と指導過程における発問構成

	すじの流れ	主人公の心の動き(言動)	発問の場	発問の意図	発問
展開 前段	朝の会が終わり美術室に行くとき、教室のすみで数人の女子が1人の女子(Iさん)を取り囲み、陰気な調子でぶつぶつ言っているのを目撃した。	<ul style="list-style-type: none"> ● 集団いじめを目撃した。 ● 注意するか何らかの方法で止めるのが、はくからクラスメートのすることだ。 	教室のすみ、美術室での集団いじめの様子を把握させる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 陰気な集団いじめの事実の実態を明らかにさせ問題意識を高める。 	◎どこでだれがだれを、どのような形でいじめているか。
	3人の男子の目撃者は「集団いじめ」としてとらえどうすればよいか考える。	<p style="text-align: center;">先生に言おう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先生に報告した後、加害者たちに何か言われるんじゃないかと心配になる。 ● 加害者たちのいじめを楽しんでいるような残酷な態度を思うと逆に勇気がわいてきた。 ● これでは良いクラスはできない。暗くて何も言えないような空気を改めるには、この問題を解決しなくてはならない。そうすれば何かがかめるだろう。 ● <u>美術が終わってからも職員室に行こう。</u> 	集団いじめを目撃した主人公の態度に気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ● 目撃した主人公の心の動きをとらえさせ、心情をゆさぶる。 	◎集団いじめに気づいた時筆者はどのように感じ、どうしようとしたか。
後段	美術の時間、うしろの席に7、8名の女子がかたまっている。(やはりIさんをいじめている)	<ul style="list-style-type: none"> ● おそろしいことだ。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 自分と比べながら価値分析、追求をし深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● なぜ思ったとおりにできなかったか。 ◎自分が筆者の立場だったらどうするか。 ◎Yさんたちの態度をどう思うか。
	泣きそうになりながら黙ってうつむいている1人の生徒を多数の生徒が遊びのようにいじめている。	<ul style="list-style-type: none"> ● Iさんの救われたような表情が印象的だった。 ● 目撃してショックだった。クラスメートどうしでこんなことが許されるわけがない。 		<ul style="list-style-type: none"> ● 加害者や被害者の態度から半の重大さに気づかせ、真剣に考えさせたい。 ● 加害者たちの態度を批判させた。 	
終末	美術の先生が注意なさる。(Iさんは席へ戻る) KさんがIさんの席へ行って脅迫している。	<p style="text-align: center;">先生に言えなかった</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 議長になったが緊張して何も言えない。 	学級集団のあり方を気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ● 主人公が自分の弱さをのりこえていく過程を通して自己投影をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● この問題について、学級会でどのような話し合いがなされたか。 ◎主人公の苦しみを乗り越えさせたものは何だったか。
	クラス・タイムの時、担任からIさんの集団いじめについて厳しい注意があった。	<ul style="list-style-type: none"> ● 高田君は偉い。勇気がある。(最初の発言は大きな決心がいる。よほど真剣でないといけないはずだ。) ● 高田君に勇気づけられた。「ほかにいませんか」少し出がふるえて今がチャンスだ。高田君のあとだから言えないはずはない。できるだけ多数の人に発表してもらおう。 ● 指名する。(加害者、被害者の名前を言っほしい。) ● 「立たなかったらその人がいじめた人です」と言う。 		<ul style="list-style-type: none"> ● これまでの自分達の学級は、どうだったか。場や条件をかえて、価値を確かめさせ、より高い価値を求めろ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの学級で似たようなことはなかったか。 ◎学級生活(係活動や当番、清掃等々)で生かしているにはどうしたらよいか。
	土曜日だが学級会が開かれた。 ● みんな真剣な表情で、なんとなく重々しい空気である。 ● 高田君が手を上げて発言した。				
	女子全員が立って男子の発言を求めたり、先生の助言を得て発表する。				
	● 事件の動機がわかった。				
	● みんなで反省に入った。				
	● 次の会で今後の対策を話し合うことにした。		集団生活を向上させるための方策を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● ねらいとする価値を生徒の心にざざみ、実践への意欲をそそる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎今日の学習を通して、心に残ったことはどんなことか。(感じたこと考えたこと等) ◎これからの生活に一人一人はどのような生き方をしたいと思うか。

7. 授業の反省と考察

(1) 生徒の実態把握

新しい学年、学級になった生徒との最初のふれあいが道徳の授業だった。しかし、当学級の生徒は在籍の約4分の3が1、2年で学級担任として、あるいは教科指導で関わりがあった。そのため、的確な事前調査もしないまま、担任から得た学級の問題点を手がかりに授業計画を立てた。

授業に臨んでみると、学年の進級とともに生徒の心の変化が大きく指導の手ごたえが十分に得られなかった。充実した授業の成立は、常に生徒が何を望み求めているかを把握しておくことであることが実証された思いがした。

(2) ねらいと資料精選

ねらいは、生徒が現に気づきあっている望ましい学級集団のあり方に焦点をしばったため、自分達の学級に投影して考えてくれたように思う。資料も過去に大小の違いはあれ経験した問題だったので身近な事としてとらえているようだった。しかし資料の中にある問題の中心が女生徒だった為、女生徒の発表が活発でなかった。

(3) 指導過程

授業開始と同時に1枚の絵を黒板に貼り、主題とするねらいに向けて動機づけを図った。生徒は即座に興味・関心を示していたので導入での意識づけはよかった。続けて中心資料の読み物(副読本)に入ったが、生徒の読みが不十分なため時間がかかりすぎた。教師のかいつまんだあらすじをもとに展開の話し合いに入ったが、内容の読みとりの浅さから発問に対する反応や話し合いの発展が予想したようにはいかなかった。生徒の消極的な反応にどう対応していったらよいかの教師の準備不足を反省している。特に道徳の時間の指導で目指すところの主体的な自覚は、時間不足で深められないまま教師の価値伝授で終わってしまったことが残念だった。終末では、3年生が心待ちにしている修学旅行を話題にして学級集団の向上のために一人一人の自覚を促して授業を終了した。一人一人の道徳時間の感想を事後に書かせ学級担任の事後指導に充ててもらった。

全体を通して自己の授業を振りかえった時、決して満足のいく授業ではなかった。しかし、理論研究と照らして自己の授業でのいたらなかった部分が明確になり、授業の工夫を再度視点を変えて研究することができたことは結果的によかった。ただ、道徳の授業では特に内面の深化を図ることに主眼をおくだけに、生徒とのレポート作りの必要性を痛いほど感じた。意気消沈していた自己を励ましてくれたのが、生徒の感想文だった。まず全員が感想文の中で「自分はどうすればよいか」という考えを書いてあったことは、うれしかった。中でも、MK君、TM君らが自己をみつめて書いてあったことは心の支えになった。また、TR君のように2か年間の教科指導ではみられなかった反応(自己との関わり)を示してくれたことは、生徒とともに成就感を得ることができた。ささやかな授業実践だったが、道徳的実践力を育てるための授業のあり方、授業を成立させるための諸々の条件や教師の授業に対する姿勢はどうかしなければならないか等を考える機会だったと思う。そして、真剣な取り組みをすればするほど生徒の心が動き、目の輝きとして現れてくることを身近に見ることができた。その感動を現場での実践に生かしていきたい。

生徒の感想文から

あの話ほぼくは少しどきどきしましたそれ
 は、2年のころそれをやったかですあの話ほ
 ぼくのためだとおもいました。
 たしかにきょうしつでなぐったりしたけどみて
 る人はたくさんいたけれどだれ一人とめ
 ようとしなかったのであのときにいじめが
 ばれて、もうなかなしにもなつてまがったと
 いまでもおもいます。いまからこういじめめ
 んをみたら一人でもちゅういしてあげたいと思
 う。ぼくはくらすにめいわくばかりかけたとおも
 うから、いまからは、めいわくもかけないで学級のこと
 をたくさんしごてをいぶんからすんでやって
 いきたいと思ひます。(M.K)

学級会の時最初に発言した彼が勇気を見て、僕は今までの自分の
 生き方が言わされていたことに気がついた。高たあと何をされるかと
 いうことより、今言わなければいけなかったらどうなるかという気が湧いて
 発言しなけりなはならないと思う。だからこの道徳と通して勇気が少
 しいかと思う。話が終わるが、僕は今まで道徳を通して何かを説
 かせられたのは初めてだ。だから、ぼくはこの道徳を通して何
 一つ道徳の大切さをわかった。そして僕は久高社
 が、置かれていた「義務教育最後の学級」という言葉が胸にしめ
 た。そしてそれがあたりまえなの水、その言葉は「勇気」だ。そして
 今からは、このクラスを、もっとも充実した集クラスにするために、と
 友と友とつかあわりのを深くしたいと思ひ。(M.Y)

考えさせられたのは「勇気」ということです。僕は勇気が
 ないから、とてもなやましました。だから僕は「勇気」
 について、いろいろと、はつきりいうことのできる人
 久高先生、いろいろ本を読んでも、どうも、ありが
 とうございました。また、一度、いろいろ本を読んでくだ
 さい。(T.M)

集団生活の充実、向上、という事は、どうも、サマなと、いひよ、
 考えるとき、私、すこしだけ考えました。
 私に、とて、「集団生活」とは、一人一人、力を合せて、ことごと
 思ひます。それと、集団生活を、まじく、中、には、他人に迷惑を
 かけない、こと、だ、と、思ひます。
 私たち、学級も、一人一人、が、まじく、サマな、で、集まれば、
 ひとつ、よく、なる、こと、が、一つの、ポイント、だ、と、思ひます。
 それから、久高先生から、学んだ、ことを、まじく、深く、考え、
 たい、と、思ひます。私、を、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、
 と、思ひます。(H.T)

先日、どうもありがとうございました。これからの日々
 の中で、とて、まじく、た、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、
 として、自分、として、学級の、みんな、を、作り、ながら、
 集団生活で、一歩、思い、出、になる、修学旅行に、とり、くみ、
 ながら、いろいろ、な、こと、で、みんな、と、か、ん、は、って、い、き、
 たい、と、思ひます。(M.A)

自分の学級より、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、
 自分は、みんな、の、ため、に、何を、する、か、自分は、みんな、の、
 役に、た、る、こと、と、考え、る、べき、だ、と、思ひます。
 自分、の、ため、に、なら、どう、する、か、自分、の、ため、に、
 する、こと、だ、と、思ひます。(T.H)

クラスのみんなが、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、
 ように、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、
 自分、が、行動、し、た、ら、まじく、まじく、まじく、まじく、
 と、思ひました。(K.M)

それから、集団生活の中で、みんな、と、仲、よく、できる、こと、
 自分、の、考え、を、持、て、い、け、ま、す。クラス、の、みんな、と、仲、よく、な、る、こと、
 クラス、の、団、結、が、い、ち、よ、う、と、深、まる、と、思ひます。(N.N)

私は、久高先生、の、話、を、き、いて、まじく、まじく、まじく、まじく、
 守る、こと、が、い、ち、よ、う、と、思ひました。
 た、水、が、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、
 まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、まじく、
 守る、こと、を、わ、か、り、ま、し、た、と、思ひます。(T.S)

自分たちの学級をよくなるためには、一人の仲間
 外も出たが、学級の人間ひとりひとりが、みんなのこと
 をかみかみして、みんなを、まじく、まじく、まじく、まじく、
 が、大切だ、と、思ひます。(N.H)

道徳の時間、私も少し考えました。自分のこと
 を中心に思うと、とてもまねて、きませ。
 自分たちの学校をどうすればいいか、また、
 かがたいか、一人一人、集団、について、考え、
 たい、と、思ひます。(T.R)

V. 研究の成果と今後の課題

「道徳的実践力を育てるための授業の工夫」を指向した4か月間の研修を振り返ると、試行錯誤のくり返しであったと思う。研修を通して参考文献を読み、研さんを重ねる中で、これまでの自分は、道徳教育の指導に関して力量不足であったことを痛感した。すなわち、道徳教育の究極のねらいである「人間は人間としていかに生きるべきか」を指導する教師としての道徳教育観を新たにした。また、望ましい生徒像をめざした指導の手だてや実践についても反省することができた。

研修を通して反省し、学んだことは枚挙にいとまがないが、中でも特に道徳の時間は何を指導する時間なのか、指導する過程でどのような要件を満たせばよいか等を明確にすることができたことは、大きな成果であったと思う。

一方、道徳目標達成のための全教職員による学校の研究組織のあり方、道徳教育領域部会として、諸問題解決のために、どう協働し、アプローチしていくのか。実態把握や指導内容、方法、資料の収集と整理、活用、評価等についての問題点が浮き彫りにされた。

1. 成果

(1) 道徳の時間の役割

調和のとれた道徳性を育成するためには、学校が行う教育活動の諸領域での道徳教育を統合して1つのまとまりを持って指導する機会や場所が必要である。それがいわゆる道徳の時間の果たす役割であり、全教育活動における道徳教育を「補充、深化、統合」する場である。そして、指導においては、常に生徒自身の生き方に結びつけながら人間の生き方についての自覚を深めさせ、道徳的実践力を身につけていくことが大切であることを認識した。

(2) 実態把握の重要性

生徒一人一人が、どのような道徳的判断力、心情、態度や実践意欲をもっているか、また日常行為との関係や、生徒が何を求めているか等を的確に把握することは、道徳教育を実践するうえで極めて重要である。今研修においては、アンケート調査とその科学的な処理による実態把握の方法を会得することができた。

(3) 指導過程の工夫

道徳の時間の指導過程では、主題のねらうところを重視して指導の展開を工夫することが大切である。例えば、導入段階では、いかに効率よく動機づけするか。また、展開段階では、ねらいとする道徳的価値にどう迫り道徳性を高めていくか。さらに、終末段階においては、道徳的実践意欲をいかに盛り上げて意識の継続化を図っていくか等を工夫することが大事であることを深く認識した。

(4) 発問の工夫

発問は、一人一人の生徒の視野を広げたり、自己を見直し、自己理解を深めさせるための有効な手だてになる。また、生徒相互に、ものの見方、考え方、感じ方等を引き出し、道徳的価値に迫っていく大切な手段でもある。そこで指導効果を高めるためには、発問の中味と方法を工夫することが生きた授業につながることを認識した。

(5) 望ましい資料

生徒に充実感をもたらすような生き生きとした指導を行うためには、生徒の心をゆさぶり人間や価値について、新鮮な思いで心が開かれるような資料を選択し、有効に活用する工夫の重要性を認識した。

(6) パソコン（教育機器）の効果的な活用

パソコン等の教育機器については、メカに弱い自分には縁遠いものとしてこれまで敬遠してきた。しかし研修を重ねるうちに、資料作成における効率のよさ、正確さ、保管、諸検査、評価等にも必要欠くことのできないものであることがわかった。

2. 今後の課題

- (1) 生徒の道徳性の実態に応じた指導内容の構成と指導方法の改善工夫に努める。
- (2) 道徳のねらいを達成するためにふさわしい資料の収集と整備、保管のあり方について工夫する。
- (3) 道徳教育の全体計画及び、道徳の時間の指導計画、指導過程や指導方法に関する評価のあり方について重ねて研究にとり組む。

このような課題の解決に当っては、校内研修の体制を整え、全教師が道徳教育のあり方について共通理解に立ち、協働することによって解決の道を開いていきたい。

おわりに

4か月間の研修をふり返ったとき、短い期間ではありましたが、自己の道徳観を新たにすよい機会となり、大変有意義でありました。

私はこの研修によって培われた諸々の成果を、今後、日々の教育実践に十分生かされるよう鋭意努力し、生徒の道徳的判断力、心情、実践意欲や態度の育成向上に精一杯がんばっていきたいと思います。また、研修を通して浮き彫りにされた道徳教育上の問題点の解決にあたっては、教壇実践の中で研究に取り組みつつ、その道の権威者の方々のご指導を仰ぎ打開策を見出し出していきたいと思います。なお、学校で抱える道徳教育上の課題解決のためにも校内研修を通して、より確かな方向性を求めて着実に進めていきたいと思っています。

末尾になりましたが、研修の機会を与えていただきました浦添市教育委員会並びに本校の金城正徳校長に厚く御礼を申し上げます。更に、直接、間接ご指導ご助言をいただきました諸先生方に深く感謝申し上げます。

<文献及び参考書>

- 中学校指導書 道徳編 文部省
- 中学校道徳指導上の諸問題 文部省
- 道徳教育と実践力の育成 中学校教育実践講座15
- 道徳教育充実のための校内研修の手引 文部省
- 新道徳教育事典 青木・金井・佐藤・村上編 第一法規
- 中学校道徳教育の基本的課題1 金井肇 明治図書